

2. 大学院における施設・設備等

(1) 施設・設備等

a. 大学院研究科の教育研究目的を実現するための施設・設備等諸条件の整備状況の適切性 現状の説明

大学院には、独立した4階建ての大学院棟がある。1階には、研究科長室(学務部長室を含む)(4室)、講師控室(1室)、大学院事務室と更衣室(各1室)、応接室(1室)、書庫と倉庫(各1室)以外は、大学院会議室(1室)、大学院資料室(辞書・事典、専門書、雑誌等及びパソコン1台とプリンタ1台を配備)(1室)及びパソコン室(パソコン10台とプリンタ1台を配備)(1室)がある。2階には、講義室の小教室(8室)、中教室(3室)及び学生自習室(1室)がある。3階には、学生談話室(1室)及び学生自習室(14室)がある。4階には、学生談話室(1室)及び学生自習室(14室)がある。この施設・設備等は各研究科で共有している。学生資料室、パソコン室、学生談話室と学生自習室は、午前9時から午後9時30分まで開館し、学生自習室に限っては、卒業論文を作成する状況を配慮して、10月1日から最終提出日の翌年1月20日の午後10時まで開館することになっている。

これ以外に、「大学図書館」は「OPAC」を採用することによって、図書目録の検索ができるようにすると共に、午後9時まで開館し、学生の研究活動を支援している。また、「情報処理センター」は、学生に「メールアドレス」を付与し、「SANSルーム」を午後4時30分まで開室することにより、学生の情報収集、情報交換を支援している。情報処理センターに設置されているパソコン教室(5室)は大学院の講義にも利用できる。また、マルチメディア教材を作成するための準備作業室(1室)は、大学院の教育活動を大いに支援している。したがって、整備状況の適切性は良好であると思われる。

点検・評価 長所と問題点

特に学生自習室については、個室まではいかににしても、3人部屋、4人部屋を用意して、学生が研究活動に没頭できるように配慮していること、パソコン室には最新機種のパソコンを常備するようにして、学生の研究活動を支援していることから、大学院としては自負できる設備・施設等の諸条件を有していると言える。

過去5年間の学生自習室の使用部屋数は、以下のとおりである。

年度	1997	1998	1999	2000	2001
3人部屋	11	1998年度より3人部屋を4人部屋に改装			
4人部屋	15	26	27	27	27
研究生室	2	2	2	2	2
合計	28	28	29	29	29

しかし、大学院の総収容定員である149名分の学生自習室を確保しておくとしたら、問題はあつた。3名につき1室を用意していたのが、1998年度からは4名につき1室を用意して対応しているが、それでも不足している。パソコン室についても、これを利用する面積、部屋数を拡大し、機器を増設しなければならない。また、学生自習室には、情報コンセンが用意されていない。個人がパソコンを持ち歩く現状には、これではどうも対応し得ない。

将来の改善 改革に向けての方策

情報コンセンについては、予算の都合、早急に対応し得ないので、パソコン室に1個だけでも設置できたらと、検討している。しかし、学生自習室にしても、パソコン室にしても、更には、これから検討しなければならない「マルチメディア教育」、「サテライト大学院」、「通信制大学院」にしても、とにかく財政に相

談しなければならない。特に財政は大学院の裁域をはるかに越えた問題であるので、要望ないし要求として、大学院の充実と将来発展に対する大学首脳の意識を期待するしかない。

b. 大学院専用の施設・設備の整備状況

現状の説明

大学院専用の施設・設備等としては、大学院棟に設置されている施設・設備等に集約されている。特に学生自習室、パソコン教室等。(十九)-2(1)のaを参照。これ以外に、大学院図書費の予算によって購入されている。辞書・事典、専門書、雑誌等があり、これらは「大学図書館」に所蔵して管理されている。大学院図書費の使用状況からすると、これもまた、整備状況の適切性は良好であると思われる。

過去5年間の大学院図書費の予算額と使用状況は、以下のとおりである。

研究科・専攻 修了年度		法 学	経営学	文 学			経済学
		法律学	経営学	英文学	フランス文学	国際文化	経済学
1996	予算	902,500	902,500	451,250	451,250	-	902,500
	決算	1,782,493	19,750	649,915	89,079	-	1,037,341
1997	予算	902,500	902,500	451,250	451,250	451,250	902,500
	決算	218,396	880,399	315,148	687,355	446,510	559,128
1998	予算	880,000	880,000	430,000	400,000	470,000	880,000
	決算	1,330,974	309,790	347,505	433,426	303,936	996,132
1999	予算	880,000	880,000	430,000	400,000	470,000	880,000
	決算	830,627	280,433	250,828	395,859	26,928	1,056,191
2000	予算	880,000	880,000	430,000	400,000	470,000	880,000
	決算	997,319	1,447,234	487,420	389,430	323,581	780,309

研究科・専攻 修了年度		共通費	合 計
1996	予算	120,000	3,730,000
	決算	317,000	3,895,578
1997	予算	120,000	4,181,250
	決算	33,449	3,140,385
1998	予算	242,000	4,182,000
	決算	237,850	3,959,613
1999	予算	242,000	4,182,000
	決算	177,656	3,018,522
2000	予算	242,000	4,182,000
	決算	217,444	4,642,737

点検・評価 長所と問題点

大学院図書費の予算額と使用状況は、全体的には問題もな \searrow 推移しているようであるが、特定の研究科に偏って消化されている。また、消化し得ないでいる状況にもある。しかし、決して不要であるというわけではない。学生と学務部長との懇談会で判明しているのは、大学院図書費の予算額があること自体が学生に徹底されていないこと、購入を依頼しても、「大学図書館」に所蔵して管理されているので、これが整理されているかどうか、学生に図書情報を提供されていないことである。早急に検討しなければならない。

将来の改善・改革に向けての方策

学生に徹底されるためには、全体的に大学院図書費の予算額があることを情宣するばかりか、1年に2回、申請する期限を事前に告示して、より有効的に消化できたらと、考慮している。また、大学図書館に所蔵して管理されるにしても、これが購入されると、定期的に整理リストを「大学院事務室」に提出してもらい、これを公開して、学生に図書情報を提供することにしている。

既実施して、学生に利用されている。学生と学務部長との懇談会を開催して、整備状況を可能な限り改善・改革していくことにしたい。現在、学生のアンケート調査を実施して、施設・設備等(図書、パソコン)について検討、これを審議している。

(2)維持・管理体制

a.施設・設備等を維持・管理するための学内的な責任体制の確立状況

現状の説明

大学院棟の維持・管理は「大学施設課」、閉館後の管理は「大学庶務課」、大学院において購入する図書の管理は「大学図書館」、パソコンの管理は「情報処理センター」が所轄している。「大学院事務室」も常に維持・管理体制に注意を払っている。教員の意見はもちろん、学生と学務部長との懇談会を開催、学生からの意見を可能な限り吸収して、積極的に対応している。したがって、責任体制の確立状況は良好であると思われる。

点検・評価 長所と問題点

大学院にとっては、特に問題はない。

将来の改善・改革に向けての方策

大学院にとっては、現状を見守っているところである。

b.実験等に伴う危険防止のための安全管理・衛生管理と環境被害防止の徹底化を図る体制の確立状況

現状の説明 点検・評価 長所と問題点 将来の改善・改革に向けての方策

該当しないので省略。ただし、教職を目指す学生には、「学生教育研究災害保険」への加入を義務付けている。